

第72回: 回腸人工肛門閉鎖術後に劇症型偽膜性腸炎を発症した一症例

(H26.7.25)

山梨 高広 (司会・主治医, 外科学), 藤山 芳樹 (担当医, 外科学),
鈴木 エリ奈, 村雲 芳樹 (病理学)

症例概要

症例: 79歳, 男性

主訴: なし (回腸人工肛門閉鎖希望)

既往歴

20歳; 虫垂炎, 65歳; 高血圧症, 77歳; 前立腺癌 (放射線治療)

家族歴: 特記すべき事項なし

嗜好歴: 喫煙; なし, 飲酒; 焼酎2合/日

現病歴

〇〇年の検診にて便潜血陽性を指摘され, 大腸内視鏡検査・生検により直腸癌と診断された。同年〇月〇日, 直腸癌に対して腹腔鏡下直腸低位前方切除術 (D3)

+ 回腸人工肛門造設術施行。〇〇年〇月〇日, 人工肛門閉鎖術 (術後より〇月〇日までCMZ 1g × 3/日投与)。〇月〇日, 38.2°Cの発熱および腹痛出現。〇月〇日, CTにてイレウスを認めたため, イレウス管留置。〇月〇日腎機能悪化し, 乏尿となる。〇月〇日, 呼吸・循環維持困難となり, 人工呼吸器装着および持続的血液濾過透析 (CHDF) 施行。大腸内視鏡にて偽膜形成を確認したためVCM 2 g溶解液撒布を行うも〇月〇日永眠された。

病理所見

1. 偽膜性腸炎
2. 直腸癌術後. 局所再発および遠隔転移なし。
3. 前立腺癌放射線照射後. 腫瘍遺残なし。

(当症例は学術誌に投稿予定のため, 抄録のみ掲載した)